

農に 生きる

Challenge to
My Dreams



夏場のほ場巡回に参加する土屋さん(中央) わき芽を取りながら花の様子を見る

カーネーション生産者

つちやらいき
土屋 頼己さん(28)

下田市在住。東伊豆町稲取のカーネーション生産者のもとで8年間修業し、令和7年6月から河津町で新規就農する。18アールで約37,000本のカーネーションを栽培する。



前例のない遊休ハウスでの新規就農に挑戦

カーネーションに魅せられて

河津町でカーネーション栽培を始める土屋さんは、母親の実家がマーガレットを栽培していたので、幼い頃から花が身近にある環境で育ちました。

農業高校で初めてカーネーションを栽培し「面白い！もっとカーネーションを勉強したい」と農業系短大に進学。短大では多様な品目の花き栽培を実習しましたが、カーネーションへの強い思いは変わらず「カーネーション農家になりたい」という思いが芽生えました。

短大在学中の農家研修がきっかけで、東伊豆町の花き園芸農家の山田和司さんの元で8年間修業。

栽培技術や農業経営などを学んでいます。先輩生産者のカーネーションに向き合う情熱に感動し「同じ情熱で栽培したい」と新規就農の門をたたきました。

新規就農のチャンスをつかむ

4年ほど前から、山田さんに一部のハウスの栽培から管理までを任せられ、独立就農への意欲が高まる中、カーネーションは親元就農がほとんどで、栽培施設を持たない土屋さんは施設整備の課題と直面。そんな中、JAや山田さんの協力を得て、河津町で遊休ハウスが見つかりました。

「遊休ハウスを使つての新規就農は事例がなく、今までは栽培条件も違う。一からのスタートで不安だが、チャンスをものにしたい」と決意を固め、土屋さんのカーネーション栽培が6月にスタートします。

ひと手間が品質を際立たせる

カーネーション栽培は、倒伏防止ネットの調節やピンチ(摘心)・わき芽取りなどの作業が多く、毎年さまざまな課題が出てきます。「昨年成功した方法でやつてもうまくいかないこともある。悩みは多いが手をかけた分だけ、品質につながる」と話す土屋さん。「納得のいく花ができた時にはさらに意欲が湧くと笑顔を見せます。

就農後の目標は「思い入れのある品種『バイパーワイン』を品評会に出品し、農林水産大臣賞を受賞すること。今後新規就農する人が扉を開く手伝いができる存在にもなりたい」と意気込みを語りました。

営農アドバイザーから

東伊豆営農経済センター
トップ営農指導員(花卉担当) **田村 優**

土屋さんの「カーネーション栽培がしたい」という熱い思いに感動し、新規就農のサポートを誠心誠意させていただきました。遊休ハウスを借り受け新規就農するというケースは伊豆太陽地区で30年以上さかのぼっても事例がなく、正直戸惑いましたが、大切な新たな担い手、しかも若い世代の方の夢の実現へ向けて奔走しました。

遊休ハウスを利用して新規就農する土屋さんの事例が成功例となるよう、今後も栽培や経営をサポートしていきます。



カーネーション

1本の茎先に1輪の花が付く「スタンダード」と枝分かれした茎先に数輪の花が付く小輪の「スプレー」があります。花の色や形も豊富です。

静岡県産の9割を東伊豆町と河津町で生産しています。毎年開催される関東や県の品評会で農林水産大臣賞をはじめ上位賞を受賞しています。



営農アドバイザー(左)と花の生育状況を確認する

